

初代帆船「海王丸」が伏木富山港に来てからの歩み

～展帆ボランティアから帆船遠洋航海までの経験で学んだ事～

○学生会員 澤田実希（富山高専商船学科）
正会員 斎藤重信（伏木富山港・海王丸財団）

正会員 千葉 元（富山高専商船学科）
正会員 大坂篤志（伏木富山港・海王丸財団）

要旨

航海訓練所の練習帆船海王丸の代替船建造が計画されて、射水市では1980年頃から熱心な誘致運動が展開された。そして、1992年に富山への永久保存が決定した。その後「海王丸パーク」が建設され、総帆展帆や海洋教室などの様々な行事が催されてきた。これらの取り組みを通して海王丸は、利用者の海・船に対する知識や関心を育み、また、青少年の海洋教育に貢献してきた。富山高専学生の展帆ボランティアは、この経験をベースとし、生きた帆船での遠洋航海を通じて、多くの海技者としての技術や人間力を身に付けている。

キーワード：練習船、帆船、海洋教育、海事思想普及、展帆ボランティア

1. はじめに

伏木富山港に係留保存されている初代帆船「海王丸」（以下海王丸とする）は、私達富山県民にとって馴染み深い船である。私は、富山高専生として、また、「海王丸ボランティア」の一員として、この帆船海王丸にこれまで慣れ親しんできた。しかし、これだけ身近な存在でありながら、海王丸の歴史や現状について、自分自身知るところが少ないと感じていた。そこで、海王丸が富山に来るまでの経緯や、保存・活用の実績、その効果などを調査した。また、自身の海王丸ボランティアでの経験が自分の学生生活にどう影響したかを振り返り、その意義を確かめることとした。

2. 海王丸誘致の経緯

1979年頃、当時の運輸省は、日本丸・海王丸の老朽化に伴いこれらの代替船建造を計画していた。この話を受けた富山商船高等専門学校の教員らは「帆船海王丸の保存を考える会」を作り、富山への海王丸誘致を周囲に呼びかけ始めた。この動きが広がった結果、83年に「海王丸を富山に呼ぶ県民の会」が発足し、射水市民を中心に熱心な運動が繰り広げられた⁽¹⁾。86年からは大阪市と海王丸誘致の競争をすることになったが、1989年、海王丸を富山と大阪で4年半毎に交替で保存することが決定された。そして1992年12月3日、大阪市の保存辞退により、海王丸が富山へ継続係留することが決定した⁽²⁾。

その後の海王丸の歩みは、表1の通りである。こ

れは、(公財)伏木富山港・海王丸財団機関誌「舵輪」第1号～142号(1993～2015年)⁽³⁾より、抜粋したものである。今では、様々なイベントを通して利用者に知識や楽しさを与える、射水市の大切なシンボルとなっている。

3. 海洋教室について

海王丸パーク内の主要な行事の一つである海洋教室は、1990年(平成2年)に初開催された。海洋教室は、主に小学生を対象とした海王丸での生活や船員の仕事を学ぶ行事で、日帰りと宿泊の2コースがある。子供たちは甲板清掃や手旗信号、ロープワークなどを体験する。2000年(平成12年)からは、財団の海事職員が団体の元へ出張して講習を開く移動海洋教室が始められた。しかし、図1に示すように、初年度の翌年からは少なかった参加団体数が、

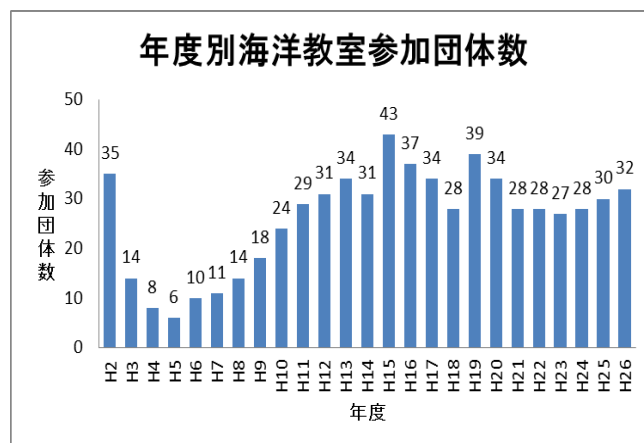


図1 海洋教室の年度別実施状況

年々増加して、平成12年度頃より後は30団体前後で一定している。これは、財団側の受け入れ限度に合わせて、これだけの数で応募を打ち切っているためであり、最近では移動海洋教室を実施する余裕がな

く、それだけ海洋教室は人気を博している。参加者の中には、これをきっかけに船乗りを目指す人もおり、青少年の海や船に対する興味・関心を育む役割も担っている。

表1 初代帆船「海王丸」が富山に来てからの流れ・主なイベントや出来事
：海王丸財団機関誌：舵輪第1号～第142号(1993年～2015年)より抜粋

年・月	場所	検査・工事	その他イベント	船長	主要出来事
1989年8月					「帆船海王丸記念財団」設立(21日)
1989年9月					現役引退(16日)・私下げ(18日)
10月	住友重機械工場(株)浦賀工場	第1回定期検査/上架改修工事			一般公開のための改修工事
11月					横浜日本丸にてボランティアの研修
1990年3月	新日本海重工業第3ドック(1日～)	改修工事(10/12～3/30)			改修工事完了・伏木富山港へ回航(9日)「伏木富山港振興財団」設立(12日) ボランティア訓練(18日)
4月	富山新港北埠頭		歓迎式(21日) 一般公開開始・第1回総帆展帆(28日)	篠塚卓真	
1992年4月		第一種中間検査/上架改修工事			
5月	新日本海重工業ドック				
1993年10月		第2回定期検査/上架改修工事			
11月					
12月	新日本海重工業ドック	改修工事(10/4～6/15)			海王丸富山継続係留決定(3日)
1994年4月					
6月					
10月	新日本海重工業ドック(10/6～4/4)	マスト改修工事・船籍			船籍東京都から新湊市へ
1995年3月					
4月	海王丸パーク(24日)				
1997年7月			海王丸フェスティバル(7/21・7/22) & 夜間公開(7/20～8/17)⇒毎年		
8月					
9月		第3回定期検査/上架改修工事			
11月	新日本海重工業ドック(11/7～3/2)	改修工事(9/1～)			
1998年3月					
2000年4月			移動海洋教室開始		
2001年6月			総帆展帆100回目・第一回登橋礼実施(3日)		
					「伏木富山港・海王丸財団」設立(1日)(伏木富山港振興財団と統合)
2003年4月		第4回定期検査(4/21～4/30)			海王丸航海士人員削減(1/0)
10月			新旧海王丸2隻同時展帆(初)(26日)		
2004年4月				河原 健	
2008年2月		第5回定期検査(2/18～3/14)			
3月					
4月				岡邊光邦	
7月					ボランティア応募要件満15歳以上に改正(1日)
2011年4月				中村保博	
2012年3月					
4月				斎藤重信	
8月			新旧海王丸2隻同時展帆(12日)		
9月			新湊大橋開通記念式典(23日)		
11月		第6回定期検査/上架修繕工事			
12月	新日本海重工業ドック(11/27～3/7)	改修工事(9/27～3/19)			
2013年2月			ドック工事見学会(2/16・3/17)		海王丸パーク恋人の聖地認定
3月					
2014年10月					世界で最も美しい湾クラブ加盟(18)
2015年8月			トリプル公開(新旧海王丸・大成丸)(8日)・W展帆(新旧海王丸)(9日)		射水市25周年記念行事
10月			豊かな海づくり大会(25日)		



4. 高専生のボランティア参加

私は富山高専商船学科航海コースに入学した1学年の春に、学校の海王丸同好会に入部し、現在まで「海王丸ボランティア」に参加してきた。「海王丸ボランティア」では、年に10回程度海王丸パークで開催される「総帆展帆」を行っている。総帆展帆とは、海王丸に取り付けられている29枚の帆全てを、ボランティアの手によって広げる作業のことである。

当初、「海王丸」の展帆ボランティアの参加年齢は18歳以上であった。しかし、欧米では15歳からセイルトレーニングをする多くの事例があり、平成20年(2008年)7月から15歳以上の参加が条件となった。(表1を参照。)これに伴い、当時の富山商船高等専門学校から数名のボランティア希望者が出て、現在に至るまで多くの活動を行っている。私が1年生の頃に5年生だった先輩の、ボランティアに参加した当初の感想文を示す⁽⁴⁾。この先輩は、今は女性海上保安官として活躍している。「訓練で初めてマストに登り最上部まで行ったときは正直肝を冷やしました。足場が不安定なため、落ちるのではないかと、という不安が常に頭の隅にあり怖かったです。しかし作業の仕方などを教えてもらい練習していくうちに恐怖は薄らいでいき、楽しさが込み上げてきました。そして初めての総帆展帆の日を想像しながら、高所作業の練習をしていました。私が参加した初めての総帆展帆は5月4日月曜日、ゴールデンウィークです。展帆に慣れた人たちの中に混ざって行った作業は、訓練のときより進むのが早く、ついていくのが大変でした。登しようも皆さんは登るのが早く、高所作業も手さばきが違い、足を引っ張って

しまっていたと思います。そんな私たちを、一緒に同じ商船学科の後輩が訓練を受けてボランティアの仲間となり、今度は私たちが後輩に教えていく番なのだと感じ、少し嬉しかったです。」

私が海王丸ボランティアを始めたきっかけは、母の勧めであった。「こんなボランティアがあるみたいだよ」と教えられ、せっかく商船学科に入ったのだから是非やってみたいという思いで、同好会への入部を決めた。しかし同時に、その作業内容が想像できず、自分にできるのだろうかという不安もあった。初期訓練や初めての展帆を終えた頃は、想像を超える作業の難しさや大変さに、呆然としていた。それ故、ボランティアに参加するのが少々億劫であった。しかしながら、ボランティアには学校の先輩や女性陣も集っており、親切に面倒をみてもらったことで、嫌になることなく参加を継続することができた。年配の方と交流したり、作業の要領やコツを教えてもらうのも楽しみの一つである。また、少しずつではあるが作業を覚えてきていて、やはり前記の先輩のように、新規の人に簡単なことを教えられようくなった時などはやりがいを感じた。展帆を見物してくれる客の存在も、私たちの励みである。

また、2012～2013年の大規模修繕工事⁽⁵⁾の際には、ドライドックにおける関係者の見学会の機会があり、海王丸の水線下の状況を良く見ることもできたのも、非常に良い経験であった。

今では海王丸ボランティアを続けて良かったと考えている。私はまだ初心者であるから、今後も展帆に参加して、帆船のことを学び、展帆の技術を身に付けていきたいと思っている。

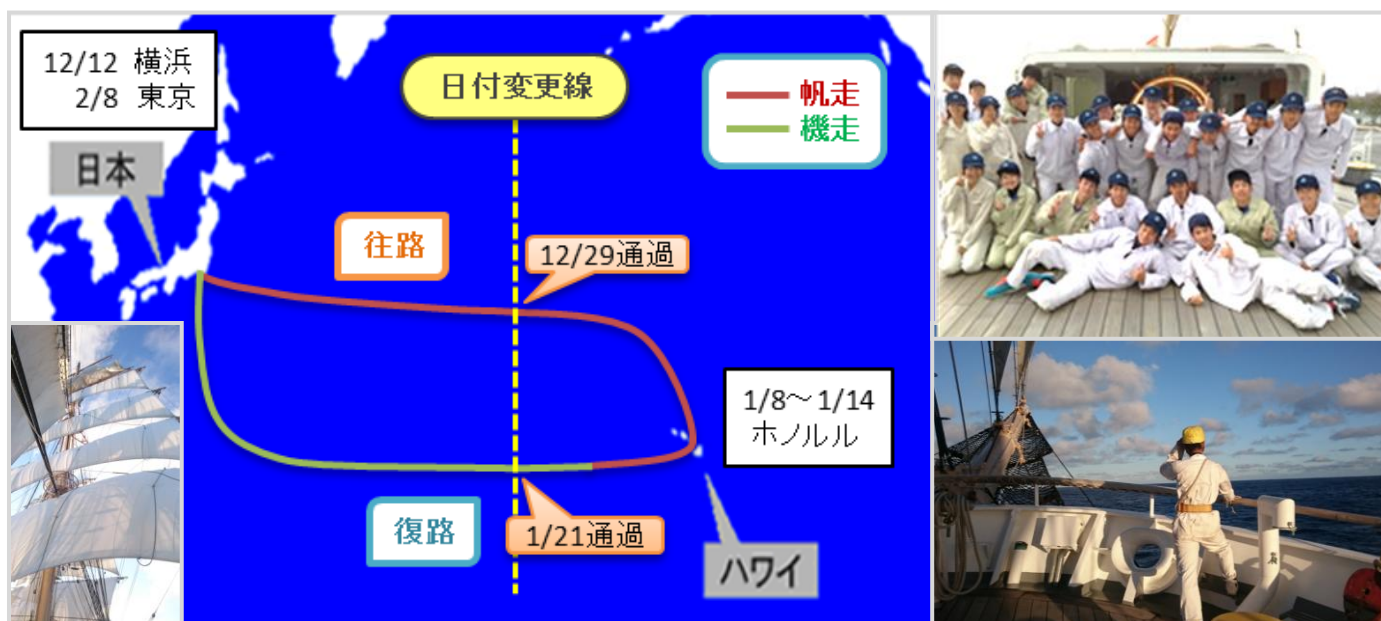


図2 航海訓練所練習帆船「日本丸」による2015年度冬季遠洋航海

5. 帆船「日本丸」の遠洋航海を経験して

こうして私も4年生となり、私達高専46期生は、昨年2015年の10月1日から2016年2月10日まで、約4ヶ月弱にわたって航海訓練所の乗船実習に行ってきた。乗船した船は、二代目帆船「日本丸」。最初の2ヶ月は国内での航海、後の2ヶ月はハワイまでの遠洋航海であった。私達が2ヶ月の航海で辿った航跡を、図2に示した。

国内航海では、まず最初に、マストに登る「登檣(とうしょう)」の訓練を行ったり、「ギア」と呼ばれる、帆の操作に必要な300本近いロープの名称と位置を覚えたり、展帆の訓練が実施されたりした。これは、私達が遠洋航海で帆走(セイル(帆)による航海)をするために必要な訓練であるが、私は富山の海王丸ボランティアでの経験があったため、訓練に割とすんなり取りかかることができた。周りの学生や士官から関心されたり、自分の経験が活かしたことを嬉しく思った。

しかしながら、海王丸ボランティアの作業は、あくまでも陸岸に係留された船の上で、天候の良い時に限って実施されるものである。12月12日、登檣礼で横浜の岸壁に別れを告げてからは、長距離の帆走を行う、生きた帆船としての遠洋航海が始まった。横浜出港後の10日間くらいは、大洋での船上生活や当直体制に体も精神も慣れず、苦勞した。船が揺れ、雨が降ったりする中でマストに登るのは初めてのことであった。天気図を読み、風を見て、状況に応じて帆やヤードを操作して当直をつないでいく。こういった作業も海王丸ボランティアでは経験できなかったことで、改めて帆船の奥深さを知らされた。

士官達に支えられながら、徐々に生活や帆走にも慣れていき、ハワイに辿り着いたときには、大きな感動を覚えた。帰りの航海ではマストから帆を外すアンベンディングセイルを行い、その後は機走(エンジンでの航海)になった。まだ帆走について学び足りないことが山ほどあるなか、もう二度と帆走ができないことを残念に思った。

やがて日本が見え、航海が終わりに近づいた頃、初めて「実習が終わって皆と離れるのは寂しい」と思うようになった。航海している間は、早く日本に帰って陸上の恩恵を受けたいという思いばかりが先行していたので、その気持ちに自分でも驚いた。辛く厳しい毎日を仲間とともに、乗り越えられてきたからこそ、その日々が終わることが寂しく感じられた。また、自分はまだ学びたいことや頑張りたいこ

とが沢山あるのに、日本丸を下船しなければならない、というのが心残りだった。しかし最後には、寂しいながらも感謝の気持ちを持って、日本丸と乗組員に別れの挨拶をした。

6. おわりに

現役引退後、海王丸は射水市で保存され、様々な活用がなされてきた。その内の1つが、「展帆ボランティア」である。これまで私はこのボランティアに参加してきて、帆船のこと、展帆のことを知り、海王丸に親しんできた。それが、海王丸の歴史を調査するきっかけにもなった。そして何より、私の日本丸での実習へと大きくつながった。特に遠洋航海は、自分にとって非常に思い入れの深いものとなっている。同時に、そこで新たに得た知識・技能や課題が残りの学生生活にまたつながっている。学校での専門の学習に活かすことはもちろん、再び海王丸ボランティアに復帰し、さらに帆船のことを学んでいきたい。帆船は、船乗りや人間にとって、大切な技術や精神を大いに育ててくれるからである。

今後の課題として、海王丸の造船後の歴史や現状、保存の技術などを詳細に調査していきたいと考えている。(公財)伏木富山港・海王丸財団には多くの貴重な資料が保存されている。次の世代へ伝えられるよう調査し、まとめていきたい。

日頃お世話になる海王丸の職員及び展帆ボランティアの皆様に深く謝意を評させていただきます。

参考文献

- (1) 雨宮洋司：「帆船「海王丸」の誘致運動の経緯と今後の課題」, 富山商船高等専門学校研究集録 23 号, pp.19-31, 1990.
- (2) (財) 帆船海王丸記念財団：「海の貴婦人 帆船海王丸」, 1990.
- (3) (公財) 伏木富山港・海王丸財団機関誌：舵輪 第1号～第143号 (1993～2016), <http://www.kaiwomaru.jp/darin/>
- (4) 千葉元, 須賀達彦, 森勇介, 舘清志, 富山高専「海王丸」学生ボランティア：「保存帆船「海王丸」の歴史と地域貢献」, 日本建築学会 2010 年全国大会・海洋建築部門研究協議会「北陸の海を活用したまちづくり」, pp.3-8, 2010.
- (5) 斎藤重信：「初代帆船海王丸の大規模修繕工事について」, 日本航海学会誌「NAVIGATION」第 195 号, pp.5-13, 2016.